

## プロジェクト情報

- 国名：インド
- 事業名：デリー高速輸送システム建設事業  
(フェーズ 1~3) (有償資金協力)
- 協力期間：1997 年から 2019 年 (予定)
- 相手国機関：デリー交通公社

## 1. プロジェクトの背景・概要

インドでは、近年人口増加と都市化が急速に進む一方、公共交通インフラの整備が進んでいません。都市部では、自動車の台数が急激に増加し、交通渋滞および大気汚染・騒音等による健康被害が深刻化しています。

JICA は、1997 年から「デリー高速輸送システム建設事業 (フェーズ 1~3)」を実施し、デリー首都圏のメトロ (都市鉄道) の整備を支援しています。デリーメトロは 2002 年に運行を開始し、1 日あたり 230 万人が利用するデリー市民の重要な交通手段となっています。「世界ユーザーフレンドリーな地下鉄」を目指して、高齢者・障害者等の利用に配慮した駅舎 (エレベーター、エスカレーターなど)・客車 (優先席など) を採用し、駅員や乗務員を対象とした手話訓練も実施しています。

## 2. ジェンダー視点から見た南アジアの都市交通の状況

女性にとって安全で快適な公共交通機関がない場合、学校や勤務先などの選択肢が狭まることになり、女性の社会進出の制約になります。インドやバングラデシュを始めとする南アジア諸国では、「イヴ・ティージング」と呼ばれる公共交通機関や公共の場所での女性に対する性的嫌がらせが問題となっています。インドのチェンナイでの調査では、66%の女性が通勤・通学中に性的嫌がらせを受けた経験があり、特に、女性専用セクションのないバスや電車内で深刻な被害にあった女性が多く、調査対象者の 40%にのぼります。これらはジェンダーに基づく犯罪とみなされており、デリー高速輸送システム建設事業においても対策が講じられてきました。

## 3. ジェンダー視点に立った取り組み

## (1) 女性の安全性への配慮

- ①女性専用車両の導入：2010 年より、各路線において、先頭車両が女性専用車両とされました。その後、一部の路線では、進行方向によって先頭車両あるいは最後尾の車両を女性専用車両とすることにより、

折り返しの駅において女性が乗り降りする車両が同じになるようにしました。



## ②サリーガードの設置：

インドでは、女性が着るサリーの裾がエスカレーターに巻き込まれるのを防ぐため、サリーガードと呼ばれる巻き込み防止ブラシがあり、デリーメトロでも導入されています。

③その他の女性の安全への配慮：女性専用車両に加え、各車両に防犯カメラと非常通報装置が設置され、女性をはじめ乗客が何らかのトラブルに巻き込まれた際に、運転手と話ができるようになっています。また、駅員や電話相談スタッフは、そうした問題を最優先に対応するよう指示されています。主要な駅には女性警備員と女性駅員が配置されています。

## (2) 啓発活動

女性利用客に対して、非常通報装置の使用方の説明なども含めた見学ツアーを実施して、女性の利用を啓発する活動を行っています。

## (3) 女性の雇用の推進

デリー交通公社では、育児休暇の付与、託児施設の開設、女子寮の設置などに加え、女性職員の苦情を処理する委員会を常設し、女性が働きやすい環境の整備を通して、女性の雇いを推進しています。

「ダッカ都市交通料金システム ICT 化プロジェクト」国営バス会社に IC カードが導入された結果、特に女性の IC カード利用が進んでいることが確認されています。国民の約 9 割がイスラム教徒であり、女性が見知らぬ男性との接触を嫌う傾向があるバングラデシュでは、IC カードを使えば、チケット購入の際に見知らぬ男性と同じ列に並んだり、男性スタッフと現金のやり取りをしったりする必要がないため、女性の精神的な負担が軽減し、公共交通機関を利用しやすくなると予想されています。

安全で、女性が安心して利用できる公共交通機関の整備は、女性の活動範囲を広げ、女性の移動の自由及び社会進出に大きく貢献します。

※日本は、米国と連携し UN Women 「デリーにおける女性・女児への暴力のない安全な街づくり」プロジェクトへの支援を行っており、本事業との相乗効果により、女性にとって安全な街づくりが更に推進されることが期待されます。